

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第5部門第2区分
【発行日】平成16年9月24日(2004.9.24)

【公開番号】特開2001-59551(P2001-59551A)
【公開日】平成13年3月6日(2001.3.6)
【出願番号】特願2000-5891(P2000-5891)
【国際特許分類第7版】
F 1 6 G 5/16
【F I】
F 1 6 G 5/16 C

【手続補正書】
【提出日】平成15年9月9日(2003.9.9)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0003
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0003】

それに対して、図8(C)は圧縮側の弦部が僅かに内反り(半径方向内側に凸)になった状態を示しており、この状態では、金属リング集合体31, 31の内周面が金属エレメント32のリングスロットのサドル面(半径方向内縁)から浮き上がって金属リング集合体31, 31の外周面がリングスロットの半径方向外縁に接触するため、金属リング集合体31, 31の寿命が大幅に低下するだけでなく、金属リング集合体31, 31に対して金属エレメント32がローリングして姿勢が不安定になり、振動や騒音が発生する原因となる問題がある。

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0030
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0030】

仮に、3か所の接触面 T_C , T_L , T_R の図心Pが金属リング集合体31, 31の厚さ方向中央のライン L_1 よりも半径方向内側に位置していると、金属リング集合体31, 31の厚さ方向中央のライン L_1 に沿って作用する押し力Fにより、前記圧縮側の弦部は図8(C)に示すように内反り(半径方向内側に凸)になってしまう。その結果、金属リング集合体31, 31の内周面が金属エレメント32のサドル面44, 44から浮き上がって金属リング集合体31, 31の外周面がリングスロット35, 36の半径方向外縁に接触してしまい、金属リング集合体31, 31の寿命が大幅に低下するだけでなく、金属エレメント32がローリングして姿勢が不安定になるために振動や騒音が発生してしまう。